

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 結果 なかよしこども園

I. 教育目標

<p>教育理念 人間への基礎作りとしての豊かな創造性と感性を育てる ・体験を通して子ども自身が自分で身につけ、学ぶ能力の基盤を養う。 ・自分の頭で考え判断し自発的に行動のとれる子に。</p> <p>教育の精神 ・望ましい保育環境を作り ・適切な言葉がけを開拓し ・豊かな人間形成をめざす</p> <p>保育方針 ・各年齢の発達の特徴をよくとらえ、0歳から就学までの一貫性のある保育。 ・発達の個人差を受け止め、一人ひとりの違いが大切にされ、その違いが育ち合いを生む保育。 ・実体験を通して創造性や豊かな感性を養う保育。 ・子ども一人ひとりをあたたかく受容し安定感と信頼感を持って活動できるよう、心身共に健康的な生活をめざす保育。 ・少子化、核家族化による子育て環境の変化を受けとめ、異年齢集団の関わりの中で子ども同士の育ち合う関係を大切にする保育。 ・働く女性の増加に伴いその子育てと就労を支え、家庭の育児機能の高揚を図るとともに、地域の子育て家庭へも支援活動の強化に努める。</p>

II. 今年度の重点目標

<ul style="list-style-type: none"> ・子ども一人一人の思いを大切に、子ども自らが育とうとする力を育む ・様々な取り組みの中で、子どもたち同士で学び、育ち合う関係を築く ・全職員が人事考課、研修会、研究会を通して 質の高い保育、教育を目指す ・避難訓練・消防訓練等を通して災害に備える ・園内の環境の安全面の充実を図る
--

III. 評価項目と取組み状況

評価項目	評価・課題
1 (教育内容) 保育・教育方針の理解・徹底	法人の理念や園の教育・保育目標は、日ごろから行動基準や風礼で周知し、事例検討なども行っています。しかし、理解していても行動に表れないこともあるため、今後も共通理解を深めるための話し合いを重ねていきたいと考えています。
2 (教育内容) 指導計画の作成と評価	教育・保育指針に基づき、各年齢に応じた園児の理解と発達に合わせた指導計画が立てられています。毎日の保育記録をもとに、子どもへの関わり方や援助の仕方などを職員同士で共有し、改善にも取り組んでいます。また、日々の生活の様子は写真を添えて保護者にも伝えています。
3 (教育内容) 保育・教育環境の構成	子どもが自分から遊びたくなる意欲を引き出し、目標を達成するために、環境や教材・玩具の準備や配置の工夫が大切です。今後も勉強会や研修を通じて、保育の質をさらに高めていきたいと考えています。職員一人ひとりが研修に積極的に参加したり、文献を読んで学んだり、意見交換を通じて学びを深め、子ども主体の保育を理解することが重要です。また、なかよしこども園の保育方針を保護者にもしっかり伝えていきたいと考えています。
4 (教育内容) 子どもとの関わり	一人ひとりの思いに寄り添いながら、目標と課題を明確にし、その実現に努めています。職員全員が共通理解を持ち、同じ対応ができるよう、学習や研修を強化します。子どもたちを信じて温かく見守り、頼れる存在であり続けることを目指します。また、職員一人ひとりが自己評価を通じて課題を見つけ、新たな目標に向けて成長することを大切にします。
5 (職員体制の充実) 職員同士の協力・連携	職員の仕事や役割が明確で、職員間の連携が取れているため、園運営は円滑に進んでいます。また、保育の質を高めるため、学年を超えて情報交換を深め、成果のあった取り組みや事例を共有しています。さらに、職員は各委員会に所属し、園の保育内容を充実させるため、主体的に活動に取り組んでいます。
6 (研修と研究) 研修・研究への取組み	園内外の研修に参加し、人間性と保育の資質向上を目指しています。毎週土曜日には、職員が自由に参加できるZoom研修を自主研修として提供しています。職員一人ひとりが積極的に学び、保育の質向上に繋げていますが、向上心には個人差が見られるため、研修方法の工夫や短時間勤務の職員への育成支援が課題です。今年度は、Zoom研修の導入に加え、園内での自主研修も積極的に実施しました。
7 (安全・衛生管理) 衛生への配慮	園児の健康を守り、成長を促すことを目指しています。毎日、遊具や生活環境の点検を徹底し、大きな事故なく生活できています。子どもの動きを観察し、危険な場所や行動は風礼で共有して職員全体で対策を確認しています。また、クラス内でも子どもたちと話し合い、自ら意識して行動する姿が見られるようになりました。避難訓練や交通安全教室も計画的に実施しています。健康・安全な生活習慣については、園内掲示や定期便りで家庭とも連携しながら取り組んでいます。
8 (地域との連携) 地域との関わり	季節ごとの行事には地域の方や老人会の方々を招待するなど、地域との交流を大切にしています。また、中高生の保育ボランティアを受け入れ、子どもたちに多世代との関わりを経験させています。年長児は就学に向けて近隣の小学校を訪問し、小学生も生活科の授業で来園するなど、小学校との連携も行っています。なお、新型コロナウイルス感染症は令和5年5月から5類へと変わりましたが、配慮から一部の活動は見合わせているものもあります。

IV. 学校関係者の評価

<p>おかげさまで、子どもは毎日楽しく通っています。体調や普段の出来事を丁寧に伝えていただけるので、安心して預けられます。子どもだけでなく親にも寄り添ってくださり、感謝しています。担当でない職員の方も子どもの名前を覚え、声をかけてくださるのがありがたく、親としても嬉しいです。異年齢保育では、きょうだいのような関わりや思いやりが育ち、家庭ではできない多くの経験ができていると感じています。</p>
--

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 結果 なかよし第2こども園

I. 教育目標

<p>教育理念 人間への基礎作りとしての豊かな創造性と感性を育てる ・体験を通して子ども自身が自分で身につけ、学ぶ能力の基盤を養う。 ・自分の頭で考え判断し自発的に行動のとれる子に。</p> <p>教育の精神 ・望ましい保育環境を作り ・適切な言葉がけを開拓し ・豊かな人間形成をめざす</p> <p>保育方針 ・各年齢の発達の特徴をよくとらえ、0歳から就学までの一貫性のある保育。 ・発達の個人差を受け止め、一人ひとりの違いが大切にされ、その違いが育ち合いを生む保育。 ・実体験を通して創造性や豊かな感性を養う保育。 ・子ども一人ひとりをあたたかく受容し安定感と信頼感を持って活動できるよう、心身共に健康的な生活をめざす保育。 ・少子化、核家族化による子育て環境の変化を受けとめ、異年齢集団の関わりの中で子ども同士の育ち合う関係を大切にす保育。 ・働く女性の増加に伴いその子育てと就労を支え、家庭の育児機能の高揚を図るとともに、地域の子育て家庭へも支援活動の強化に努める。</p>
--

II. 今年度の重点目標

<ul style="list-style-type: none"> ・子ども一人一人の思いを大切にし、子ども自らが育とうとする力を育む ・様々な取り組みの中で、子どもたち同士で学び、育ち合う関係を築く ・全職員が人事考課、研修会、研究会を通して 質の高い保育、教育を目指す ・避難訓練・消防訓練等を通して災害に備える ・園内の環境の安全面の充実を図る

III. 評価項目と取組み状況

評価項目		評価・課題
1	(教育内容) 保育・教育方針の理解・徹底	・保育、教育方針についてはおおむね理解しているものの、意識や認識の差が職員間にあるため、統一していけるよう工夫したい。行動基準を読み合い、自分の姿を振り返ったり、大切な事を確認し合うことができた。ただし今年度は話し合いの時間があまりたくさん取れなかったため、来年度は計画的に時間を作り予定をしていきたい。
2	(教育内容) 指導計画の作成と評価	・各クラスで、月案についての話し合いをし、子どもひとりひとりの姿、育ちを元に翌月の計画を立てる事ができている。基本的には毎日同じ日課で過ごすように計画を立てて実践・評価を行っている。
3	(教育内容) 保育・教育環境の構成	・子どもが興味関心のある物にじっくり主体的に関わっていけるよう、環境設定が出来ている。子どもの発達や様子を見て、それに合った環境設定が見直し、活かしていけるよう話し合うことができた。課題として、衛生管理や整理整頓などクラスによって差があるので衛生チェックを元に改善していきたい。
4	(教育内容) 子どもとの関わり	・ひとりひとりの気持ちや、思い、興味に寄り添い関わる事ができた。・未満児では担当制の保育をする事で、より子どもや保護者との信頼関係を深めることが出来た。こどもの主体性を育てるために大人はどうあるべきか話し合い発表し合ったりして、気づくことができた。
5	(職員体制の充実) 職員同士の協力・連携	・大きな行事や日々の保育の中で、声をかけ合ったり助け合うなど協力体制がとれているが、一部では正規と非常勤との意識の差があったり、連携がうまくとれないところもある。みなが同じ意識で保育できるよう、関係する職員みんな直接話し合う場を設けるなどの工夫ができた。行事の準備などもスムーズに行えた。
6	(研修と研究) 研修・研究への取組み	・理念や接遇、わらべうたなどの研修に参加し保育に対する共通理解を深めた。また、キャリアアップ研修に参加し、それを園内で発表し合った。・自主研修にも積極的に参加できた。コロナ禍の後から、たくさんのビデオ研修が受けられるようになり、以前より職員が参加しやすくなり積極的に参加することができた。
7	(安全・衛生管理) 衛生への配慮	・毎月、その季節に応じてどのような配慮が必要か、クラスや年齢ごと話し合い発表し合うことで、皆で気づき合ったり共通理解する事ができた。・毎月、火災や地震、地震からの津波など色々な災害を想定した避難訓練を行っている。今年は大きな地震があったこともあり、9月の防災訓練で引き渡し訓練もして皆の意識が高まった。
8	(地域との連携) 地域との関わり	・普段からお散歩に出かけた時に、子どもから挨拶をしたり話しかけたりする姿があり、近所の方との触れ合いがたくさんある。・今年度はコロナ禍もあけ、夏祭りなどに地域の方やお年寄りを招待することができた。老人ホームへの訪問も久しぶりにできてお年寄りも子どもたちもうれしかった。

IV. 学校関係者の評価

<ul style="list-style-type: none"> ・クラス掲示「今日の様子」を写真付きで毎日貼り出され、こどもたちの一日の様子がより伝わってくるようになった。自分のこどもだけでなく、クラスの雰囲気やこども同士の関わりなどもわかって良い。 ・「おいたち」では、園での様子や成長の様子が手に取るように伝わってきて、いつも楽しみにしている。 ・気になったことや心配なこと、悩み事にすぐ対応してくれるので、安心して登園させることができる。 ・登降園の際は担任だけでなく、いろんな職員が笑顔であいさつしてくれ気持ちが良い。 ・朝、9時半までに連絡が無いと出欠確認の電話をしてくれる。安心感があってよい。コドモンのシステムも連絡がし易くて気軽に使う事ができる。

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 結果 ひらくちかえでこども園

I. 教育目標

<p>○ 保育理念 いつも心に明るい笑顔を</p> <p>○ 保育目標</p> <p>(1)健康で活動的な子 (2)自分に自信をもってさらに自分でしてみようとする子 (3)自分を信じて自分のペースを大切にすること (4)興味関心をもったことに集中し意欲的にとりくむ子 (5)自分の想いを表現する子 (6)想像力、創造性、感性が豊かな子 (7)仲間を信頼し協力し合ったり助け合う子 (8)決まりの大切さが分かり自ら守る子</p> <p>○ 保育方針</p> <p>〈1〉安心して過ごせる環境の中で主体的に活動し、その実体験や人間関係をとおして自分に自信をもち、社会的に自立していくための配慮、援助をする。 〈2〉友だちや身近なおとな、地域、社会との仲間意識をもち、協力・協調して過ごしていく中で人と関わる力を培う。</p> <p>○ 行動指針</p> <p>◎ 私たちは、いつも『心の笑顔』を大切に、子どもたち、職員同士、保護者、地域のみなさんと共に成長することを目指します。日々の行動を通して人間的な魅力を身につけ、笑顔の絶えない働きがいのある職場をつくりたい。</p> <p>《1》〈心からの笑顔〉『どんなときも心は笑顔で』笑顔は誰にとっても幸運を呼び込む魔法です。笑顔であいさつ、笑顔で受け答え、笑顔でお願いすること。いつも心を笑顔にして、まわりの人も笑顔にしよう。</p> <p>《2》〈感謝〉『感謝を声に出そう』今の自分があるのは誰かのおかげと、まわりに感謝しよう。 子どもたち、職員同士、保護者の方、地域、さらには業者のみなさんに感謝の気持ちを声に出して伝えよう。</p> <p>《3》〈愛情〉『愛情を表現しよう』子どもたちを自分の親や大切な親友と同じように、愛情をもって接すれば信頼関係が生まれます。相手のことを思いやり、自分のことも大切に行動しよう。</p> <p>《4》〈プラス思考〉『プラスの言葉、態度、表情で伝えよう』子どもたちが自分で意思決定して行動することにより、自己肯定感が高まります。プラスの言葉に転換して伝え、子どもたちを信じて考える時間を大切にしよう。</p> <p>《5》〈プロセスを大切に〉『プロセスを大切にしよう』上手くいっても、いなくても、努力の過程をあたたく見守れば、子どもに自信が芽生えます。プロセスを大切に、物事に本気で取り組む姿勢、困難に立ち向かう力を育もう。</p> <p>《6》〈可能性(子ども/職員)〉『一人ひとりの「らしさ」、可能性を見つけてよう』一人ひとりの様子から、その子の「らしさ」を見つけてあげることができます。個性を引き出し、強みを見いだすことで、誰もが輝きます。一人ひとりを輝かせよう。</p> <p>《7》〈体験(健全な心と体)〉『子どもの体験を見守ろう』子どもは好奇心の塊です。実体験を通して心が動き、成長します。いろいろなものを見る、聞く、触る。子どもの体験を見守ろう。ときにはサポートしたり、危険予知の意識を養おう。</p> <p>《8》〈心と心〉『心(人間性)を優先しよう』子どもの本当の意味での成長は心(人間性)の成長です。ルールで片付けるのではなく、心と心のぶつかり合いの中で柔軟に臨機応変に意思をもって解決できる心を育もう。</p>
--

II. 今年度の重点目標

<ul style="list-style-type: none"> ・子ども一人一人をあたたく受容し、子ども自らが育とうとする力を育む ・実体験を通して創造性や豊かな感性を養う ・全職員が人事考課、研修会、研究会を通して 質の高い保育、教育を学び実践へと活かしていく ・避難訓練・消防訓練等を通して災害に備える ・園内の環境の安全面の充実を図る ・子どもの知りたい・やってみようという興味関心を高め、様々な経験を通して自信へと繋いでいく

III. 評価項目と取組み状況

評価項目	評価・課題
1 (教育内容) 保育・教育方針の理解・徹底	・毎週配布される行動基準や会議の中で理念を元に保育を振り返り、教育方針についてはおおむね理解している。職員会議やクラス内で話し合いを行い目標や課題を共有したり、週ごとの共通テーマを意識して保育を実践し深掘りを行っている。職員が記入している個人日誌を風礼の時に感想を伝え合うことで意識の確認をしていきたい。
2 (教育内容) 指導計画の作成と評価	・クラスで子ども一人一人の姿や育ちを話し合い計画の制作ができています。配慮の必要な子については個人記録を作成した。専門の講師を招いてアドバイスをもらい、個別の対応を園内全体でさらに共有していきたい。
3 (教育内容) 保育・教育環境の構成	・子どもが毎日の生活の流れを把握しやすく自信を持って生活できる環境設定ができています。子どもの発達や様子に合わせた手作りおもちゃを用意し、職員間で意見交換をしたり遊ぶ様子を見合っている。子どもの「知りたい!」「やってみよう」という気持ちを大切に子どもに興味関心から環境を整えていった。
4 (教育内容) 子どもとの関わり	・未満児クラスは担当制の中で、特定の大人と関係を深めることで愛着関係が育まれ、丁寧な関わりができていた。 ・子ども一人一人の気持ちや思いに共感し関わりができた。集団生活の中でも個々のペースを大切に、意欲や自信をさらに高めていく関わりを深めていきたい。
5 (職員体制の充実) 職員同士の協力・連携	・行事の時は職員みんなが協力し合い、よりよい行事となるように考え、行動することができた。日々の保育の中でクラス内だけでなく全体との連携を取りながら、各々が自分で考え行動することを大切にしたい。
6 (研修と研究) 研修・研究への取組み	・コロナが治まり、集合型研修が再開し始め、自園職員も参加して学んだ。クラスの様子や動画を会議の中で流しながら振り返りをし、その後クラスの話し合いの中で深掘りすることで課題と目標を確認することができた。
7 (安全・衛生管理) 衛生への配慮	・衛生では園内の清掃美化に力を入れて清潔を保った。会議の中で嘔吐物処理の研修を行ったり、室内の温度や換気に気をつけた。 ・安全ではヒヤリハットの共有や避難訓練を行ったり、お散歩マップを作成し、安全意識を高めた。
8 (地域との連携) 地域との関わり	・太鼓のコンサートや秋まつりに招待した。また、近所の方と一緒に畑で野菜を育てたり、笹やみかんをいただいた方にはお礼の手紙を写真付きで送ったりと地域の方との心の交流ができ、支えていただいていることを感じるようになった。

IV. 学校関係者の評価

<ul style="list-style-type: none"> ・離乳食では個別で献立を毎週立ててくださり家庭でも参考にさせていただいています。 ・園の子どもたちがとても仲が良く、協力しながら園での生活を送っていること、先生方も一人一人の子どもの表情や雰囲気気を配り、そっと声を掛けてくれるのを見かけ、温かさや子どもたちとの関わりを大切にされていると感じています。 ・年少中長の異年齢クラスでは、年長さんが一緒にたくさん遊んでくれたり、時には着替えや支度を手伝ってくれて、憧れのお兄さんやお姉さんがいっぱいいる中で過ごせました。子どもの育ち合う関係が素敵です。 ・室内遊びの時間には、それぞれ個性豊かに自由に遊びが広がっていき、能力や考えの違う相手を受け入れて自然と関わり合っていることに感心しました。また、それをサポートしながら援助し見守っている先生たちの姿も凄いと感心しています。 ・子どもたちの様子も先生たちの対応もとても自然体でいい意見で先生と園児という感じではなく、子ども扱いしすぎず一人の人間として関わって下さっているように感じます。子どもたちが自分で考えて周りを見て過ごしていて凄いなと思います。
